

令和5年度事業報告

私達の日常生活に大きな影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症が、令和5年5月8日に第5類に引き下げられて以降、コロナ前の日常が少しずつ取り戻されてきました。

一方で、コロナ禍や物価高騰を起因とする生活困窮者は減少しておらず、活動や行動の自粛で人とひと、人と地域のつながりの希薄化がさらに進行しました。

このような状況の中、本会では、令和2年度に策定した「第3期新庄市地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画」に基づき、地域福祉の中心的な役割と使命を認識しながら各事業を推進してまいりました。

新型コロナウイルスの影響を受けた方々に対しては、フードバンクや生活福祉資金特例貸付を活用しながら支援をしてきましたが、令和5年1月から順次償還が始まりました。関係機関と連携し、生活状況を確認しながら、償還指導や継続的な相談支援を行いました。

市民の皆様が「利用したい社協！ 応援したい社協！」と思える社協を目指し、毎月の本会の事業内容を広く情報発信するために、今年度より「社協だより お知らせ版」を作成し広報活動の推進に努めました。

放課後児童クラブ運営事業では、児童が安心して生活できるよう、各放課後児童クラブの特性に応じた業務継続計画及び安全計画を策定しました。10月からは、教員OBの方々に協力いただき、子ども達の学習のサポートや社会性を育む、学習支援ボランティアを開始しました。

もみの木介護支援事業所では、多様化・複雑化する利用者に対応するため、積極的に研修を受講し資質向上に努めました。介護を必要としている方や家族の相談に応じ、最適な介護サービスが提供できるよう、ケアプランの作成、各介護保険サービス事業者との連絡調整等を行いました。

もみの木訪問介護事業所では、利用者の心身の特性を踏まえて、在宅で自立した日常生活を営むことができるように、生活援助や身体介護を行い、利用者とその家族の介護負担の軽減を図りました。専門職の人材不足は全国的に社会問題となっていますが、特にスタッフヘルパーについては、今年度から雇用年齢の上限を70歳から75歳まで延長し、人員の確保に努めました。

地域包括支援センターでは、高齢者等に関するあらゆる相談を受け止め、課題解決に向けた助言や適切なサービスに繋げる支援を行いました。様々な課題を抱えた支援困難事例に対しては、行政や医療機関、民生委員等と随時協議しながら専門的な支援を実施しました。今年度から本格的に、「元気・ハツラツ予防体操」「障がい者サービス事業所の物品販売」「認知症カフェ」を一体的に行う通いの場を実施しました。

各事業にご支援ご協力をいただいた関係各位に感謝申し上げます、令和5年度主要事業につきましてご報告いたします。

【法人・地域福祉事業】

1. 役員会等運営事業

(1) 理事会の開催

◇第1回理事会	令和5年 6月 7日 (水)	出席理事 10名 出席監事 2名
◇第2回理事会	令和5年 6月 26日 (月)	出席理事 12名 出席監事 2名
◇第3回理事会	令和5年 12月 11日 (月)	出席理事 13名 出席監事 1名
◇第4回理事会	令和6年 3月 19日 (火)	出席理事 13名 出席監事 2名

(2) 評議員会の開催

◇第1回評議員会	令和5年 6月 26日 (月)	出席評議員 24名 出席監事 2名
◇第2回評議員会	令和5年 12月 20日 (水)	出席評議員 18名
◇第3回評議員会	令和6年 3月 27日 (水)	出席評議員 17名 出席監事 2名

(3) 監査の開催

◇第1回監査	令和5年 5月 22日 (月)	出席監事 2名 (令和4年度分)
◇第2回監査	令和5年 11月 24日 (金)	出席監事 2名

(4) 委員会の開催

◇評議員選任・解任委員会	令和5年 6月 8日 (木)	書面による決議
◇老人福祉センター運営委員会	令和5年 7月 19日 (水)	出席委員 9名
◇懲戒審査委員会	令和5年 9月 27日 (水)	出席委員 5名
◇歳末たすけあい配分委員会	令和5年 12月 8日 (金)	出席委員 8名
◇新庄市善意銀行運営委員会	令和5年 12月 8日 (金)	出席委員 8名
◇会長表彰選考委員会	令和6年 2月 14日 (水)	出席委員 5名

(5) その他

◇会計訪問指導	令和5年 5月 15日 (月)	高山税理士
	令和5年 9月 27日 (水)	高山税理士
	令和6年 3月 18日 (月)	高山税理士
◇訪問介護事業所運営指導	令和5年 5月 26日 (金)	
◇介護予防支援事業所運営指導	令和5年 5月 26日 (金)	
◇新庄市介護保険施設等に 係る集団指導	令和6年 3月 22日 (金)	
◇職員採用試験 第一次	令和6年 2月 10日 (土)	
第二次	令和6年 2月 24日 (土)	

2. 事務局運営事業

【関係機関及び団体との連携】

①行政(新庄市)との連携

- ・事業運営に関し、所轄庁としての助言・指導をいただいた。
- ・社会福祉協議会事業の情報の共有に努め、市の広報紙等に掲載協力をいただいた。
- ・社会福祉協議会運営費、老人福祉センター運営費の補助をいただいた。
- ・地域包括支援センター運営事業、要介護認定調査、放課後児童健全育成事業(日新・萩野・明倫・新庄)、地域活動組織育成支援事業、敬老会支援事業を委託事業として実施した。
- ・福祉サービス利用援助事業、貸付事業等の制度・サービスの運営における要援護者の支援を連携して行った

②区長協議会との連携

- ・社会福祉協議会の協力員として、常に市民の先頭に立ち地域福祉・高齢福祉事業及び共同募金事業などの普及活動や啓蒙、広報紙の配布、会費・募金の徴収等幅広くご協力をいただいた。

③民生委員児童委員協議会との連携

- ・社協の各種事業を進めるうえで、ニーズの把握や情報提供にご協力いただいた。
- ・生活福祉資金貸付事務事業では、低所得者世帯の更生を図るため、指導や意見、対象世帯の見守りにご協力いただいた。
- ・歳末たすけあい募金の配分実施では、対象世帯の調査及び配付のご協力をいただいた。

・社協視察研修

社協の事業説明及び施設内を案内し、各事業所の説明を行い、更なる連携強化を図った。

(日程については23ページ記載)

④県社会福祉協議会との連携

- ・生活福祉資金貸付事業・福祉サービス利用援助事業を委託事業として実施した。
- ・社会福祉関連事業を進める上で指導、意見をいただいた。

⑤関係諸団体との連携

- ・婦人会、老人クラブ連合会、身体障害者福祉協会、更生保護女性会、交通安全母の会やその他の関係諸団体と、共同募金活動等、各事業において連携とご協力をいただいた。

(事業効果等)

各機関、団体のご指導・ご協力により、円滑な社協事業の運営が図られた。

⑥地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定に向けた取り組み

- ・令和2年度に策定した第3期地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画の推進状況について、年次評価（各事業の実施状況の把握、分析、評価等）を行うため、検討会と推進委員会を開催した。

○検討会の開催

- ・日時：令和6年2月16日（金）15：00～16：30
- ・場所：新庄市役所

○推進委員会の開催

- ・日時：令和6年2月27日（金）13：30～15：30
- ・場所：新庄市役所

（事業効果等）

令和2年度に策定した第3期地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画における年次評価（各事業の実施状況の把握、分析、評価等）を行うことで、検討会及び推進委員会において、令和5年度の取り組み状況を確認し、福祉課題について共有することができた。

3. 会 費

会費の納入に理解を求めるとともに、納入の便宜を図るため金融機関（新庄信用金庫・新庄市農協・もがみ中央農協）での振込を促進した。

また、6月下旬の5日間の期間、市役所内で行う各種会費等の集中受付に同席し、社協窓口を設け、納入の簡便化に努めた。

令和5年度実績額	前年度実績額	前年度比較	対前年比	振込利用件数
7,565,000円	7,679,400円	△114,400円	98.51%	17件

集中受付期間 6月19日～23日

期間中社協会費納付地区数 178町内

（課題等）

社協事業への理解や協力を求めるため、ホームページや会議の場での情報提供、広報紙やSNSによる広報活動を今後も継続する。

4. 実習生の受入れ

専門的な知識や実践力の高い人材の育成のため、将来の福祉を担う資格取得を目指す実習生の受入れを行った。

（介護支援事業所）

【介護支援専門員実務研修実習】

実習生1名 受入れ期間 令和6年1月22日（月）
1月25日（木）
1月30日（火）

（訪問介護事業所）

【訪問介護実習】

東北文教大学短期大学部 学生 1名
受入れ期間 令和5年8月9日（水）～10日（木）

(地域包括支援センター)

【インターンシップ】

米沢女子短期大学 学生 1名

受入れ期間 令和5年9月7日(木)

【在宅看護連携実習】

山形県立保健医療大学 学生 3名

受入れ期間 令和6年2月13日(火)～16日(金)

(事業効果等)

実習生を受け入れることで、将来の福祉を担う専門的な人材が育成されると共に、指導する担当者が専門職としての知識や技術の再確認を行うことができた。

5. 職員研修

各事業所が個々の専門職としての知識・技術を高めるための継続的な研修の他に、社会福祉協議会としての危機管理対策や職員育成のための研修を行った。

○令和5年度新規採用職員研修

新たに正職員となった職員を対象に、法人組織の一員としての基本的知識の習得及び社会人・組織人としての自覚形成を促し、地域福祉を推進することができる社協職員に育成することを目的に行った。

日時：令和5年4月24日(月) 9時～12時

場所：社協3階会議室

対象：新規採用職員2名

講師：富樫常務理事、三浦事務局長、高橋事務局次長、黒坂事務局次長

○交通安全講習会

日時：令和5年12月12日(火) 13時30分～15時

場所：社協3階会議室

内容：山形県内の事故状況について、事例紹介、グループディスカッションなど

講師：山形県火災共済協同組合 菅野祥生氏、松田信人氏

参加人数：20名

6. 各種表彰該当者の推薦

第73回山形県・県民福祉大会

開催日：令和5年10月30日(月)

場 所：寒河江市市民文化会館

社会福祉の分野で顕著な功績があった方に対し、その功を称え表彰状が贈られた。

◇ 県知事表彰

民生委員・児童委員功労者 阿部 強

共同募金運動奉仕者 大場 孝代

- ◇ 大会会長表彰
民生委員・児童委員功労者 阿部たきの
一般社会福祉事業関係功労者 門脇 茂
- ◇ 山形県社会福祉協議会会長感謝状
佐藤 明

(敬称略・順不同)

7. 福祉教育の推進

これまで、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々なボランティア活動が自粛されていたが、今年度は、学校へ赤い羽根共同募金の街頭募金や除雪ボランティア等への参加を呼びかけ、福祉教育の推進を図った。

小学校の総合的な学習の時間において、福祉について学習する講座を開催し、「福祉とは何か、身近にどんな福祉があるか」を学び、児童一人一人が興味関心のある福祉分野について理解を深める機会を設けた。

明倫学園：令和5年 6月23日(金) 受講者6年生(69名)

明倫学園：令和5年11月10日(金) 受講者6年生(30名)

「昔あそび」を行う福祉教育を、学校と地域の高齢者ボランティアに協力いただきながら開催した。

明倫学園：令和6年 1月22日(月) 対象者1年生(51名)

(事業効果等)

地域や学校と連携を図りながら、世代間交流を実施することができた。

8. 福祉サービス利用援助事業(山形県社会福祉協議会委託事業)

認知症の症状や知的障がい、精神障がい等によって必要な福祉サービスを自身の判断で適切に選択・利用することが難しい方を対象に、福祉サービスの利用手続きの援助を基本サービスとして、必要に応じて日常的な金銭管理の支援を行った。

基幹的社協分利用件数 25件(前年度18件)

内、新規契約締結件数 8件、解約件数 1件

令和5年度相談件数 392件(前年度285件)

(事業効果等)

利用者数が増加傾向だったが、利用者の生活状況の変化に柔軟かつ適切に対応し、福祉サービス等の利用援助や日常的な金銭管理を実施することができた。

9. 生活福祉資金貸付事業(山形県社会福祉協議会委託事業)

低所得者世帯等の経済的自立と教育支援を図るため、貸付を実施した。滞納者に対しては、償還指導、相談援助を行った。

〈令和5年度貸付内訳〉

資金種類	件数	貸付金額
福祉資金（転居・修繕・葬儀・運転免許）	2件	965,000円
緊急小口資金	2件	145,000円
教育支援資金（就学支度費・教育支援費）	3件	5,294,000円
合計	7件	6,404,000円

（事業効果等）

低所得世帯に対し、資金の貸付や相談支援等を行うことにより、自活できると認められる世帯で、必要な資金を銀行等から借り受けることが困難な世帯に対し、担当民生委員と連携を図り、貸付や償還指導を行った。

特例貸付の借受世帯に関しては、新型コロナウイルス感染の影響で生活状況が厳しく償還が困難な世帯に対し、電話や文書等で償還猶予等の相談支援を行った。

10. 地域活動組織育成支援事業（地域ふれあいサロン事業 市委託事業）

高齢者が住み慣れた地域で生き生きと過ごすことができるよう、閉じこもり予防や介護予防を目的とした「地域ふれあいサロン」の活動や運営を支援した。

◇サロン活動の実施状況

	開催地区	実施回数（回）	参加人数（名）
1	下金沢地区	9	59
2	老人福祉センター周辺	20	151
3	泉田地区	8	101
4	本合海地区	34	211
5	金沢新町	12	75
6	あたご地区	7	59
7	本宮1区	21	147
8	野際団地	8	55
9	八向地区（サロン桜）	13	104
10	西町地区	7	33
11	千門町地区	32	263
12	下仲町地区	8	56
13	柏木山	9	71
14	吉袋地区	12	168
15	上仲町	5	18
16	鳥越	28	283
17	梨の木	14	86
18	小泉	51	408
19	下田町	16	122
20	上茶屋町	45	387

2 1	東山	1 2	1 1 9
2 2	上名古屋敷	1 4	4 5
2 3	八向地区(どんぐりの会)(新規)	4 7	3 7 9
2 4	横根山 (新規)	2 0	9 8
2 5	升形3区 (新規)	1 2	1 3 1
2 6	末広町 (新規)	3 8	4 1 7
2 7	中道町 (新規)	1 1	1 6 7
合 計		4 5 7	3, 7 9 6

(事業効果等)

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、解散した地区もあったが、開催回数、参加人数は昨年度より増えた。

◇地域ふれあいサロン交流会

サロン活動を活性化するために、他地区サロンとの交流や意見交換の場として交流会を実施した。

開催日：令和5年12月6日(水)

場所：最上広域交流センター「ゆめりあ」2階会議室

参加人数：12地区のふれあいサロン計21名

1 1. 敬老会支援事業(市委託事業)

町内会等で開催される敬老会の行事に必要な経費の一部を助成した。

開催地区 8地区 参加者 500人

補助金額 167,014円

(事業効果等)

敬老会を支援することで、高齢者福祉の増進に寄与した。

1 2. 新庄市善意銀行事業

30,000円を限度に生活困窮世帯に貸付を行った。

			令和5年度	前年度	対前年比(%)
現年度	払出	件数	0件	0件	0
		金額	0円	0円	0
	貸付	件数	31件	38件	81.58
		金額	620,000円	797,000円	77.79
	未償還	件数	12件	18件	66.67
		金額	257,000円	380,000円	67.63
全体	未償還	件数	19件	22件	86.36
		金額	397,000円	427,000円	92.97

(事業効果等)

生活費が不足し生計の維持が困難になった世帯の相談に応じ、給与や公的給付が入るまでに必要な生活費を貸付した。生活自立支援センターもがみと連携し、生活状況の把握や家計に関する助言を通して、自立に向けた支援を行った。

〈参考〉貸付年度別未償還件数

年度	R 1	R 3	R 4	R 5	合 計
件数	1	1	5	1 2	1 9

◇フードバンクの提供

生活自立支援センターもがみ、行政等の関係機関と連携し、新庄市内の55世帯に食品を提供した。(通常33世帯、歳末時22世帯)

※歳末たすけあい配分の該当世帯のうち、母子・父子世帯の22世帯に対し、共立社新庄生協からフードドライブで寄贈いただいた食料品を提供した。

1.3. 放課後児童健全育成事業（市委託事業）

市の委託を受け、市内4ヶ所の放課後児童クラブを運営した。

日新放課後児童クラブ（松本）

萩野放課後児童クラブ（萩野学園内）

新庄放課後児童クラブ（新庄小学校内）

明倫放課後児童クラブ（明倫学園内）

施設	職員数	年間開所 日 数	定員	利用児童数（名）				
				年間利用者数	年度当初	年度末	1日あたり 利用人数	1日あたり 利用人数 (土曜日除く)
日新	9名	288日	90名	15,202	87	76	52	62
萩野	4名	284日	40名	7,396	41	38	26	30.7
新庄	4名	288日	40名	7,725	40	40	26.8	31.8
明倫	5名	288日	60名	10,278	60	54	35.6	42.1

(研修等) 職員の資質向上のために下記の研修会に参加及び実施した。

○山形県放課後児童クラブ指導者研修会(オンライン研修)

「学童保育で働くということ～保護者とともに子育てを」

期 日：令和5年5月31日(水)

場 所：新庄市社会福祉協議会3階会議室

講 師：山形県学童保育連絡協議会会長 高木 直 氏

日新2名、明倫2名 計4名

- 山形県発達障害者支援センター(オンライン研修)
「発達障がいのある児・者へのライフステージに応じた支援」
期 日：令和5年5月31日(水)
場 所：新庄市社会福祉協議会3階会議室
講 師：山形県立こども医療療育センター 診療科長 白幡 恵美 氏
日新6名、明倫1名、新庄4名 計11名

- 放課後児童支援員認定資格研修
日 程：6/5、6/7～8、6/12、6/19～21、6/28(8日間)
場 所：寒河江市中央公民館2階小ホール
受講者：日新1名、萩野1名 計2名

- 第1回最上地区放課後子ども総合プラン指導者研修会
「気になる子への理解と支援」
期 日：令和5年6月20日(火)
場 所：最上総合支庁5階講堂
講 師：花笠ほーぷ隊
日新7名、明倫5名、新庄4名、萩野3名 計19名

- けん玉教室
期 日：令和5年7月26日(水)
場 所：明倫・新庄放課後児童クラブ
講 師：日本けん玉協会二級指導員 平山 明 氏

- 「ペアレント・プログラム」支援者向け講演会
期 日：令和5年9月2日(土)
場 所：ゆめりあ2階会議室
日新2名、新庄1名、萩野2名 計5名

- こども医療療育センター 障がい児地域医療機関への専門員派遣事業
期 日：令和5年10月12日(木)
場 所：日新放課後児童クラブ 和室
講 演：子どもの行動の理解と支援
日新7名

- 第2回最上地区放課後子ども総合プラン指導者研修会
「放課後の子どもの学びと理解」
期 日：令和5年10月31日(火)
場 所：山形県神室少年自然の家
日新6名、明倫5名、新庄4名、萩野3名 計18名

- 最上学園地域還元研修(オンライン研修)
「日々の関わりの中で私達ができること」
期 日：令和5年11月8日(水)
場 所：新庄市社会福祉協議会3階会議室
講 演：「関わりが難しい子に、日々の関わりの中で私たちができること」
講 師：こども医療療育センターリハビリテーション科
訓練主幹(兼)技師長 今泉 彰子 氏
日新5名、明倫5名、新庄3名、萩野2名 計15名

○山形県委託早期からの親子サポート事業

「発達に課題のあるお子さんへの関わり方」

期 日：令和5年11月23日（木）

場 所：最上広域交流センターゆめりあ2階ホールアベージュ

明倫2名

(事業効果等)

放課後児童クラブにおいて、業務継続計画及び安全計画を策定した。また、安全管理マニュアルを見直しも行い、組織体制の再確認と各職員の役割の整理を行い、地震や風水害に見舞われた時の備えや感染症対策など環境整備を強化することができた。また、令和5年10月より、教員OBの皆様から協力いただき、各放課後児童クラブで月1回学習支援ボランティアを開始した。宿題や自学で分からないことをサポートいただいた。今後は昔遊びやスポーツ等、ボランティア団体の受け入れを推進していく。

(課題等)

日新放課後児童クラブについては、入所定員90名で利用児童が多く、他の放課後児童クラブと異なり、小学校の敷地内の設置ではないため、職員が小学校に迎えに行っている。入所児童の車道への飛び出しや、死角になる場所があり、交通安全面で不安があり職員の心理的負担となっている。また、現在の建物は昭和50年に建てられた旧県立新庄農業高校の星芒寮を改修したもので、職員の目が行き届かない場所が多い。建物自体の老朽化が進んでおり、耐震についても不安があるため、引き続き市と協議していく。

常勤職員及び年休対応の時間制臨時職員が不足しているため、人手が足りない場合は事務局職員やシルバー人材センターの会員で対応している。

1.4. 連絡調整育成指導事業

下記の団体に補助金を交付した。

団体名	内容等	金額(円)
新庄市戦没者遺族会	戦没者遺族会活動事業への支援 (市補助金243,000円)	243,000
新庄市民生委員児童委員協議会	調査協力費の交付	56,000
新庄市更生保護女性会	青少年非行防止等事業への助成	43,000

(事業効果等)

各団体の事業推進を支援した。



がついている事業は共同募金の配分金で実施している事業です。

1.5. 企画・広報・情報事業（共同募金配分金事業）

(1) 広報紙「社協だより」の発行

◇第51号	令和5年 7月発行	全戸配布
◇第52号	令和5年11月発行	全戸配布
◇第53号	令和6年 3月発行	全戸配布

(事業効果等)

今年度より、表紙を2色刷りからカラーに変更し、目につきやすい、読みやすい広報紙づくりに努めた。社会福祉協議会の事業内容や福祉情報、地域福祉活動を幅広く掲載し、市民の地域福祉活動への関心をより高めるとともに、各種情報の提供を行った。

(2) 社協だより「お知らせ版」の発行

今年度より、毎月の社協の情報をより多くの方々に提供するために「お知らせ版」を発行し、情報発信を行った。

◇広報紙配布先 民生委員・児童委員、放課後児童クラブ保護者、市内介護支援事業所等

◇広報紙設置先 市民プラザ、わくわく新庄、新庄図書館、ゆめりあ、市民文化会館、雪の里情報館、わらすこ広場、萩野地区公民館、山屋セミナーハウス、ほしてらす、日本調剤新庄薬局、新庄市成人福祉課、新庄市老人福祉センター

(3) ホームページ・フェイスブック・インスタグラム・X（エックス 旧 Twitter）の運営
(事業効果等)

社会福祉協議会の事業や活動について、ホームページ・フェイスブック・インスタグラムを媒体とすることで、研修会や義援金の案内、ボランティア活動の報告など、よりタイムリーに市民の皆様へ情報を発信し、広報を強化することができた。

また、若い世代への情報発信を強化するため3月よりエックスを立ち上げ、より多くの媒体で情報提供ができるよう体制を整備した。



ホームページQRコード



フェイスブックQRコード



インスタグラムQRコード

16. 助成金事業（共同募金配分金事業）

下記の団体との協働を図り、その活動を援助するため負担金等の助成をした。

事業実施福祉団体	内容等	金額（円）
社会を明るくする運動推進委員会	少年犯罪・非行の防止、更生援助への支援	28,000
新庄市身体障害者福祉協会	ストレッチ講習会への支援	28,000
新庄建築大工組合	生活困窮世帯等の住宅環境を整備するための修繕経費の助成	62,110

(事業効果等) 各団体に助成し、事業推進を図った。

17. 社会福祉協議会表彰等事業（共同募金配分金事業）

(1) 社会福祉協議会表彰

開催日：令和6年3月8日（金） 場所：新庄市社会福祉協議会3階会議室
社会福祉事業に多大な貢献のあった個人・団体に対し、その功を称え表彰を行なった。

◇ 会長表彰受賞者 5名

《民生委員・児童委員功労者》

矢口 栄子 佐藤由美子

《一般社会福祉事業関係功労者》

永澤八重子 (新庄市身体障害者福祉協会役員)

小林 睦子 (新庄市更生保護女性会役員)

三原 明美 (社会福祉法人新寿会職員)

◇ 会長感謝状 1名

《社会福祉事業協助・奉仕者》

阿部 幸三 (新庄市共同募金委員会募金推進員) (敬称略・順不同)

(事業効果等) 顕彰により更なる研鑽・貢献が期待できた。

(2) 敬老祝い品の贈呈

長寿の方々に会長の祝詞と放課後児童クラブの利用児童が作成したメッセージカードを添え、祝い品の贈呈を行った。

米寿対象者 249名 (男85名 女164名)

(事業効果等)

祝い品の贈呈により、長寿の方への尊敬・感謝の想いを示した。

共同募金配分金を原資として、長年、米寿及び白寿の祝い品の贈呈を行ってきたが、対象人数が増加していること、共同募金の募金額が年々減少していることなどから、配分金事業の見直しを行った。結果、昨年度で白寿の方への贈呈を廃止、今年度で本事業を廃止することとした。

18. 心配ごと相談事業（共同募金配分金事業）

◇ 弁護士相談 新庄ひまわり基金法律事務所 浅沼 敬弁護士

毎月第3週木曜日（午後1時30分～午後4時）

◇ 一般相談 (社協職員対応) 平日 (午前8時30分～午後5時15分)

相談内容	弁護士相談	相談内容	一般相談
借金・多重債務	11件	生 計	56件
離 婚	6件	高齢者・介護	2件
遺言・相続	14件	障 が い	2件
近隣トラブル	0件	除 雪	0件
財産・不動産	3件	ボランティア	0件

事 故	2 件	新型コロナ関連	8 件
労 働	2 件	そ の 他	1 1 件
消 費 者	0 件		
苦 情	0 件		
そ の 他	1 4 件		
合 計	5 2 件	合 計	7 9 件

(事業効果等)

弁護士相談において、離婚、相続、借金等の相談に対し、法的な観点から問題解決に向けた助言や適切な方向性についてのアドバイスを行った。

一般相談では、生活困窮に陥っている世帯の相談が多く、フードバンクの活用や、行政、生活自立支援センターもがみ、民生委員児童委員、山形県社会福祉協議会等と連携して、迅速な支援を行うことができた。

19. 援護事業（共同募金配分金事業）

災害被災者・交通遺児への支援

- ・市内の火災等の災害に遭われた世帯に対し見舞金等を支給している。
- ・市環境課のご協力をいただき、小学生から高校生までの交通遺児に激励金を支給している。

	対 象 世 帯	金 額 (円)
災 害 見 舞 金	0	0
交 通 遺 児 激 励 金	0	0

(事業効果等)

実績なし。共同募金配分金を原資として支援を行ってきたが、配分金事業の見直しの結果、本事業については、今年度で廃止することとした。

20. 児童遊び場整備事業（共同募金配分金事業）

地域で管理している児童遊園の遊具の修繕費用や保全に必要な原材料の給付を行った。

	申請地区数	総事業費 (円)	地元負担金 (円)	交付金額 (円)
遊具の修繕	4 地区	3 0 7 , 1 4 2	6 2 , 6 0 2	2 4 4 , 5 4 0
		角沢、柏木原、仁田山、二枚橋		
原材料支給等	1 3 地区	2 8 3 , 9 3 4	—	2 8 3 , 9 3 4
		赤坂、上西山、福田、二枚橋、市野々、横根山、往還、蛇塚・上野、清水、角沢、本宮二区、昭和三、柏木原		

(事業効果等)

子ども達が安全に遊べるように各地区へ原材料の支給、修繕費の補助を柔軟に実施できた。

21. 高齢者健康対策振興事業（共同募金配分金事業）

会長杯ワナゲ大会の開催

消毒、換気等の新型コロナウイルス感染症予防対策を講じて開催した。

ワナゲをきっかけにして、高齢者の健康増進と運動能力の開発、仲間づくりにつながった。

開催日：令和5年9月15日(金) 場所：新庄市体育館

参加人数：延115名 20チーム

	団体の部	個人の部	
		男子	女子
優勝	上茶屋町めぶきクラブ	石山 宣助 (末広町寿会)	大山 悦子 (上茶屋町めぶきクラブ)
準優勝	新松会A	押切 守 (桧町桧和会)	高橋良史子 (上茶屋町めぶきクラブ)
第3位	末広町寿会	山口 富男 (塩野輪投チーム)	佐藤賀志子 (新松会A)

(敬称略)

22. 愛のひと声運動事業（共同募金配分金事業）

配達日 毎週月・水・金曜日

利用者 32名 延回数 3,638回

(事業効果等)

市内の乳酸飲料業者と連携し、ひとり暮らしの高齢者を対象に乳酸飲料を配付しながら、声かけや安否確認することで、住み慣れた地域での安心した生活を支援することができた。

23. 高齢者世帯等除雪支援事業（共同募金配分金事業）

※ 積雪が少なく、実績なし。

24. ボランティア活動推進事業（共同募金配分金事業）

・ボランティアセンターとして、情報提供や活動場所との調整を行った。

・ボランティア活動保険の加入業務を行い、ボランティア団体の把握に努めた。

(1) ボランティア講座の開催「Let's Start! ボランティア入門講座

～ボランティアを通して新しい自分を見つけよう!～」

講義内容：1. 「ボランティアをはじめするための第一歩」

講師 新庄市社会福祉協議会 小野 綾乃

2. 「新庄市社会福祉協議会におけるボランティア活動の内容について」

講師 新庄市社会福祉協議会 赤平 航

開催日：令和5年11月25日(土)

場所：新庄市民プラザ3階 小ホール

参加人数：8名

(2) 災害ボランティア

市で実施した防災訓練にボランティアセンターの運営として職員参加

開催日：令和5年10月15日(日)

場所：日新小学校

参加人数：5名

(3) ボランティア団体との協働

- ・大工ボランティア：新庄建築大工組合のご協力により、低所得高齢者4世帯の老朽化した家屋の軽微な修繕を実施した。
- ・チョコボラ：訪問理美容ボランティアのご協力により、外出困難な高齢者等へ理髪することにより、福祉向上を図ることができた。
実施件数：18件

25. 元気・ハツラツ予防体操事業（共同募金配分金事業）

高齢者の方々が生きがいを見つけ、いつまでも自分らしく健康で生活ができるよう、運動機能の向上を目的として介護予防体操を実施した。

開催日時・場所：①毎月第1金曜日 13時～14時 社会福祉協議会2階
②毎月第2金曜日 13時～14時 老人福祉センター第1会議室
③毎月第3金曜日 13時～14時 老人福祉センター第1会議室

参加人数：392名

実施回数：30回

講師：公益社団法人山形県柔道整復師会
植木 俊和 氏（植木接骨院）
早坂 耐希 氏（早坂整骨院）
加藤 修 氏（かとう整骨院）
早坂 心大 氏（早坂整骨院）

(事業効果等)

社協事務所と老人福祉センターで開催しているが、利用者の健康に対する意識が高く、日常生活であまり使わない筋肉を刺激することで、筋力や体力の維持・向上することができた。参加者が多く、次年度も引き続き事業を継続していく。

【老人福祉センター運営事業】

1. 老人福祉センター施設管理事業

高齢者のふれあい、生きがいづくりの場として、より多くの方々にご利用いただけるよう運営に努めた。

◇防火設備の点検

非常用ベル等の点検を実施し、利用者の安全確保に努めた。

(1) 老人福祉センター利用状況

		令和5年度	前年度	対前年比 (%)
開館日数		287 日	303 日	94.72
利用者	延べ人数	6,683 人	7,120 人	93.86
	団体数	829 団体	805 団体	102.98
	1日の平均利用者数	23.3 人	23.5 人	99.15

※令和5年度より、祝日は休館日となる。

(2)  文化教室別利用状況 (社協主催事業 共同募金配分事業)

文化教室種類	令和5年度 (人)	前年度 (人)	対前年比 (%)
けん玉教室	139	122	113.9

※けん玉教室については令和6年度で終了。

(3) 備品等借用

市内の団体及び個人に対し、下記の備品の貸し出しを行った。

備品等	件数
車椅子	24件
高齢者疑似体験スーツ	4件
ワナゲ用具	4件
テント(共同募金配分で購入)	0件
綿菓子製造機	0件
ポップコーン製造機	1件

2. 老人福祉センター施設設備事業

修繕なし

(事業効果等)

新型コロナウイルス感染状況は収束したが、利用状況については昨年度並みの状況となった。全体的に利用者及び利用団体数については、昨年度と比較してほぼ同じ推移となった。

(課題等)

老人福祉センターについては、築後47年が経過し、全体的に劣化が進んでいる。既に入浴施設を休止している状況にあり、耐震診断も行っておらず、施設を安全かつ快適に利用するには、多額の費用を要すると考えられる。建設時に新庄市独自で建設するよりも社会福祉法人等の民間団体で建設するほうが日本自転車振興会等からの補助金が受けられるとの理由から、本来、行政が建てるべき施設であったが、国会名義で建てられたものである。運営費については、一部社協の自主財源を補填している状況で社協全体の財務状況が赤字であるため運営が困難である。当初は、令和5年度末で閉所の方向性であったが、現在も市と協議中であり、令和6年度中の閉所に向けて準備を進めていく。

【共同募金事業】

山形県共同募金会新庄市共同募金委員会と連携し、区長をはじめ多くの市民・団体等のご協力を得て募金活動を推進した。

1. 赤い羽根共同募金

〈募金内訳〉

	令和5年度 (円)	前年度 (円)	対前年比 (%)
戸別募金 (町内)	3,811,200	3,773,750	101.00
企業募金 (479件)	1,658,224	1,755,457	94.46
街頭募金 (8団体)	106,120	50,205	211.37
学校募金 (市内14校)	110,288	132,462	83.26
職域募金 (23カ所)	70,901	48,118	147.35
篤志募金 (市民有志等)	110,336	130,083	84.82
合計	5,867,069	5,890,075	99.61

〈配分内容〉

配分先	<ul style="list-style-type: none"> ○こども食堂等運営事業(3カ所) 特定非営利活動法人福祉サポートセンター山形、わたしの暮らしプロジェクト、特定非営利活動法人地域づくり・フォローアップセンター ○福祉車両整備事業(1カ所) 特定非営利活動法人くれよんはうす ○障がい者就労支援事業(1カ所) 特定非営利活動法人すぎのこハウス ○民営学童保育所支援事業(2カ所) 一般社団法人なかよし会、学校法人平和学園新庄幼稚園認定こども園 ○地域福祉事業 新庄市社会福祉協議会
社協配分事業	老人福祉センター文化教室、愛のひと声運動事業、高齢者世帯除雪支援事業、助成金事業、児童遊び場整備事業、社会福祉協議会会長表彰、心配ごと相談事業、フードバンク、ボランティア活動推進事業、ワナゲ大会の開催、広報紙の発行、ホームページの運営、元気・ハツラツ予防体操、

(事業効果等) 募金の配分金を福祉施設の整備や地域福祉事業に活用し、地域への還元を図った。

〈参考〉

街頭募金協力団体	沼田学区婦人会、新庄市身体障害者福祉協会、新庄市更生保護女性会、山形県社会福祉士会最上支部、新庄市交通安全母の会、あじさいウォーキング、明倫学園、日新中学校
街頭募金活動場所 活動場所提供協力	ヨークベニマル新庄店、ヨークベニマル新庄下田店、ヤマザワ新庄宮内店、マックスバリュ新庄店、ビッグフレック新庄店、マルシェゴーノメ新庄店
学校募金協力校	新庄小学校、日新小学校、升形小学校、本合海小学校、萩野学園、明倫学園、日新中学校、八向中学校、新庄中学校、新庄北高等学校、新庄南高等学校、新庄神室産業高等学校、新庄東高等学校、新庄養護学校
職場募金 (募金協力)	新庄市役所、新庄市体育協会、最上広域市町村圏事務組合

職場募金 (募金箱設置協力)	新庄市役所市民相談室、新庄・最上地域シルバー人材センター、もがみ物産館、マックスバリュ新庄店、よつば調剤薬局宮内店、セブンイレブン新庄新町店、産直まゆの郷、新庄市身体障害者福祉協会(県立病院売店、合同庁舎売店)、ファミリーマート新庄千門町店、マルシェゴーノメ新庄店、ヨークベニマル新庄下田店、ヤマザワ新庄宮内店、ニューグランドホテル、(株)柿本商店、JA産直いなふね、ダイユーエイト(株)新庄西店、新庄警察署、新庄市老人福祉センター、新庄市社会福祉協議会
篤志募金	石山宣助、あじさいウォーキング、新庄・最上地域シルバー人材センター、匿名10名

(順不同・敬称略)

2. 歳末たすけあい募金

(1) 募金活動

〈募金内訳〉

	令和5年度 (円)	前年度 (円)	対前年比 (%)
戸別募金 (町内)	1,902,800	1,881,150	101.15
篤志募金 (市民有志等)	23,000	10,000	230.00
合計	1,925,800	1,891,150	101.83

(2) 歳末たすけあい運動

共同募金運動の一環として、市民の皆様からお預かりした歳末たすけあい募金について、新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人達が安心して暮らせるよう配分委員会を開催し、効果的に配分した。

〈配分内訳〉

世帯区分	対象世帯数 (世帯)	配分金額 (円)
準生活保護世帯	2	36,000
高齢者世帯	54	972,000
母子・父子世帯	23	414,000
障がい者世帯	3	54,000
入院・入所世帯	2	36,000
その他困窮世帯	3	54,000
合計	87	1,566,000

・配分額 現金18,000円×87世帯=1,566,000円

・地域福祉活動費として302,803円 新庄市共同募金委員会事務費として57,000円

(事業効果等)

配分金は民生委員児童委員や関係機関と協力を得て、効率的に調査・配分することができた。

【介護等支援事業】

1. 介護支援事業（もみの木介護支援事業所）

介護支援専門員 5名

介護を必要とされている方が自宅で適切にサービスを利用できるように、介護支援専門員が心身の状況や生活環境、本人・家族の希望等に沿って、ケアプランを作成し、医療機関、サービスを提供する事業所等との連絡・調整を行った。

		令和5年度	前年度	対前年比(%)
要介護	件数	1,576件	1,558件	101.16
	収入	24,876,230円	24,838,100円	100.15
要支援・事業対象	件数	452件	431件	104.87
	収入	1,879,540円	1,789,940円	105.01
認定調査	件数	169件	154件	109.74
	収入	557,700円	508,200円	109.74
合計	収入	27,313,470円	27,136,240円	100.65

(課題等)

- ・要介護や要支援等のケアマネジメントや認定調査の件数は、昨年度と同等の件数を維持することができた。
- ・年々、新庄市だけでなく市外の施設（特別養護老人ホーム等）より電話や訪問があり、施設入所しやすい状況にあるが、今後できるだけ住み慣れた家で生活ができるように支援していく。

2. 訪問介護事業（もみの木訪問介護事業所）

介護福祉士 5名

介護福祉士実務者研修修了者 1名

ホームヘルパー2級 12名

(令和6年3月31日現在)

自分や家族だけで日常生活を営むことが難しくなった要介護者に対して、介護福祉士やヘルパーの資格を持った介護員が自宅に赴き、入浴、排泄、食事等の身体介護、掃除、洗濯、調理等の生活援助、通院時の外出移動サポート等の日常生活上のお世話をを行うと共に、住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう、居宅介護支援事業所等と連携し業務を推進した。

		令和5年度	前年度	対前年比(%)
訪問介護事業	件数	757件	773件	97.93
	収入	26,800,780円	33,078,645円	81.02
障害者自立支援事業	件数	124件	120件	103.33
	収入	5,054,200円	5,665,937円	89.20
ひまわり介護サービス事業	件数	106件	86件	123.26
	収入	560,900円	673,070円	83.33
福祉有償運送サービス事業	件数	527件	271件	194.47
	収入	182,220円	96,540円	188.75
合計	収入	32,598,100円	39,514,192円	82.50

○包括的・継続的ケアマネジメント

①介護支援専門員資質向上連絡会の開催

介護支援専門員の実践力向上やネットワーク構築のための研修会、情報交換会を開催した。

場所：新庄市社会福祉協議会　開催回数：6回（オンライン）　参加延人数：138名

<内容>

第1回：新庄市通所型サービス

第2回：生活保護制度

第3回：看取り

第4回：在宅医療介護連携拠点の紹介

第5回：成年後見制度と福祉サービス利用援助事業

第6回：今年度の振り返りと来年度の企画

②介護支援専門員への個別援助

介護支援専門員へ必要に応じて同行訪問等のサポートを実施した。困難事例については、同行訪問や関係機関との連携を支援した。

・相談件数：65件

○自立支援型新庄市地域ケア会議の開催

介護支援専門員から事例提供いただき、多専門職種が協働し、個別ケースの課題や支援内容を検討し、課題解決を支援した。各専門職の助言者から適切な助言を受け、実践力向上や関係者間のネットワーク構築を図った。また、新庄市と会議運営の見直しをするための協議を実施し、改善を図った。

開催回数：12回（第3水曜日）　検討ケース：25ケース　参加者：302名

参加者：新庄市、包括、居宅介護支援事業所、サービス事業所、外部助言者（薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、主任介護支援専門員）、傍聴者

○研修会・イベント等の開催

①認知症サポーター養成講座

認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かい目で見守り支える認知症サポーターを養成した。

対象：一般市民（ゆめりあ会議室、地域サロン）、明倫学園

開催回数：5回

養成人数：76名

②認知症サポータースキルアップ研修会

認知症サポーター養成講座を修了した方を対象に、認知症についての知識を深め、地域で認知症の人やその家族を支援するために必要な知識を身に付けるための講座を開催した。

日時：令和6年3月6日（水）14時～15時30分

場所：ゆめりあ会議室

内容：新庄市の認知症施策、認知症初期集中支援チームの役割と活動事例、認知症カフェ

参加人数：23名

③オレンジカフェ（認知症カフェ）

気軽な雰囲気の中で認知症について学んだり、ミニ講話やレクリエーション、折り紙等を行いながら交流できる場所として開催した。

実施場所 ・ひと休みいっぷく 開催回数：12回、参加人数：98名
・社会福祉協議会2階 開催回数：15回、参加人数：77名

④相続・遺言・任意後見についての市民向け研修会

公証人の役割、相続制度の概要や遺言の形式や効力、任意後見制度における後見人の役割や利用形態、信託について学んだ。

日 時：令和6年3月14日（水）14時～15時30分
場 所：ゆめりあ会議室
講 師：鶴岡公証役場 公証人 中野 亨 氏
参加人数：18名

⑤いきいき百歳体操（筋力運動）・かみかみ百歳体操（口腔体操）の立ち上げ支援

高齢者の社会参加と介護予防を目的として、公民館や福祉施設等で毎週体操ができる通いの場の立ち上げや百歳体操の指導を実施した。また、体操で使用する重り等の物品管理を支援した。

実施場所 19箇所

老人福祉センター、新庄市体育館、グループホーム大手町、萩野地区公民館、さんのほり、とこしえ新庄松本・新庄金沢、SOMPO ケア新庄城西、新庄小学校、有料老人ホームすまいる、ほしてらす、日本調剤薬局、上茶屋町公民館、千門町公民館、鳥越公民館、鉄砲町公民館、小泉公民館、八向地区公民館、中道町公民館、末広町公民館

⑥オレンジ市場の開催

障がい者サービス事業所の物品販売を行うオレンジ市場、オレンジカフェ（認知症カフェ）、元気・ハツラツ予防体操を一体的に行う通いの場を開催した。参加者が多く、好評につき、次年度も開催していく方向性となった。また、障がい福祉サービス事業所との連携が深まった。

開催日：6月2日、7月7日、10月6日、12月1日

場 所：社会福祉協議会2階

⑦社会資源リストの作成

- ・前年度冊子化した新庄市内の介護保険外サービス（移送、配食、運動教室等）を再調査し、データの更新を図った。各居宅介護支援事業所や情報提供いただいたサービス事業所へ再配付し、有効に活用していただいた。
- ・いきいき百歳体操や地域ふれあいサロンの情報を収集し冊子化した「地域サロン通いの場マップ」作成した。高齢者の活動性・健康増進に繋げることができた。

⑧社協視察研修

- ・6月28日（水）新庄市第2区民児協視察研修
- ・7月13日（木）新庄市第1区民児協視察研修

社協の事業の説明、特に関わりのある生活福祉資金制度や歳末たすけあい事業等を説明し、連携強化を図ることができた。

(事業効果等)

令和5年度は、例年と比較し相談が多い年度だったが、各専門職（社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員）が専門性を活かし、関係機関と連携し、包括的な相談支援を実施できた。また、オンライン市場を本格的に開催し、障がい福祉サービス事業所との連携が深まった。百歳体操などの通いの場が大幅に増え、情報についてまとめ、冊子化することができた。

2. 介護予防支援事業（もみの木介護予防支援事業所）

介護保険で要支援者及び介護予防・日常生活総合事業における事業対象者に対して、心身の状態や環境に応じた適切なケアマネジメントを実施し、介護予防サービスの利用を支援した。

また、元気高齢者には、いきいき百歳体操や介護予防教室等、地域の通いの場を紹介し介護予防を推進した。

介護予防ケアマネジメント	令和5年度	前年度	対前年比 (%)
総 件 数	4,412件	4,434件	99.50
内センター作成成分	1,402件	1,365件	102.71
委 託 件 数	3,010件	3,069件	98.08
収 入 金 額	20,214,180円	20,233,680円	99.90
委託費支出金額	12,559,940円	12,744,820円	98.55

(事業効果等)

全体のケアマネジメント件数は、昨年度と同等の作成件数を維持できた。居宅介護支援事業所に委託するケースが多く、委託可能な事業所の選定や連絡調整に苦勞したが、適正なケアマネジメントとなるよう、各事業所へ適切な指導を行うことができた。また、介護保険サービスだけでなく、地域の通いの場も積極的に活用し、介護予防を推進することができた。